

2017 先端工学とその教育に関する国際会議 (2nd ICAEE 2017)が開催されました

去る2018年3月8日(木)～10日(土)太田キャンパス研修室2(4F)において、標記国際会議が開催された。昨年度、平塚学長をお招きしての開催であった第一回に続いた連続年の開催である。今回は、「産学官連携研究の推進事業」の一つとして太田市からの支援事業の一つとして開催され、OB/OGのみならず、世界的に活躍している研究者を招聘することができた。招へい研究者は、鄒徳春教授(北京大, 現中国支部長), 隆武強教授(大連理工大, 前中国支部長), Erfan Cheng 教授(瀋陽化工大学), Prof. Kwang Min Chun(Yonsei Univ., Korea), Prof. R.Thirumaleswara Naik (IISc; Indian Institute of Science)の5名である。ウェルカムでは、太田キャンパスの見学, 工業会中国支部総会に続いて、太田を代表するビアレストランである、ダニエルハウスにおいて、竹内利行群馬大学元副学長, 関庸一群馬大学理工学府長, 久米原宏之工業会理事長, 正田寛太田商工会議所会頭(しげる工業会長)そして、鄒徳春中国支部長(北京大学教授)らからご挨拶をいただくとともに、多文化共生で太田市にも関係の深い、結城恵大学教育センター教授や、各国を代表した招へい研究者らからスピーチをいただいた。翌日のオープニングにおいても、上記とほぼ同様なかたがたからご挨拶を頂戴したが、早くも次回の3rd ICAEE 2018は重慶市において開催されることがほぼ決定したことが報告された。

オープニングに引き続いて、いくつかの招待講演が行われ、たまたま韓国内燃機関研究を代表する、Prof. Kwang Min Chun や、インドを代表する Prof. G.K. Babu の弟子にあたるという Prof. Naik, そして筆者の研究室の教員や学生が参加していたこともあり、エンジン研究の話題では大いに盛り上がった。これを機に、学生の一人が、Yonsei Univ. に交換留学をすることになったし、インドの二つの大学との交流協定を結ぶことにもなったのである。国際交流というのは、はずみがつくと相乗効果的に活発になるものようである。

午前最後のセッションは、特別講演である。今回は、高大連携でお世話になっている、群馬国際アカデミー(GKA)から、吉田シヅエ中高等部校長から「ぐんま国際アカデミーにおける英語イマージョン教育」というタイトルでご講演いただいた。さすがに公用語が英語という高校だけあり、完璧な英語とその自由闊達な教育方針、そして数多くの成果をご紹介いただいた。文科省のとびたてプログラムに、なんと7名もの採択者をだしていることにもみなため息をついていた。ちなみに、群馬大学は全体で1名であるらしい。

工業会中国支部長の鄒徳春北京大教授からは、流ちょうな日本語でのご講演であったが、北京大では、下位5%は大学を去らなければならないという背筋も凍るお話があった。後日譚であるが、Yonsei Univ.は韓国のSKYでベスト3に入るし、インドのIIScは、かの有名なIITの上をいく少数精鋭の大学であるが、どちらもそういうことは聞いたことがなく、日本とほぼ同一で、おおむねテニユアがとれるとのことである。

時間調整に入れた筆者の国際化に関する話では、このような貴重な機会を広く大学として広報し、待ったなしの国際化をすすめるべしとの大きな期待の声をいただいた。ランチは、自慢のここ食堂で、みな満腹のおなかを抱えての午後のセッションとなった。招待講演、一般講演、ポスタ

一と予定通りに進行し、太田ビキニ館での懇親会に出発した。2日目とは言え、ビキニ館自慢の和食を堪能したのは言うまでもない。勢いあまって、カラオケ装置もフル回転となった。

3日目のエクスカージョンは、中島知久平邸の見学である。説明要員は太田市の職員とのことであつたが、ていねいに案内していただき、当時の県庁なみの費用がかかっていたことや、いまのスバルの10倍もの従業員規模の巨大企業であつたことなど、驚きの連続であつた。エクスカージョンのあとは、土曜日ではあつたが、桐生キャンパスの一部見学を行つて、大いに国際交流の花が咲いたのであつた。

地元の要望で100年前に設立された桐生工業高等専門学校から群馬大学理工学部は発展をし、いままた地元太田市の要望に応えるかたちでの初の国際会議を行うことができた。ご参加いただいたすべての皆さま、ここには記していないが、太田市の職員のかたがた、鈴木楽器の会長さんなど、地元からの大きなエールをいただいた。皆さまの応援があつて実現できたこと、そして実行委員、事務職員の協力があつてできたことを記して感謝の言葉としたい。



オープニングの鄒徳春中国支部長



正田寛太田商工会議所会頭



久米原宏之工業会理事長



司会をされる石間経章産学連携推進部門長



Prof. Kwang Min Chun (Yonsei Univ.)



質疑で盛り上がる Prof. Lei Chen (Shenyang Aerospace Univ.)



Prof. Shao Yiming (Chongqing Univ.)



質疑で盛り上がる黒田真一副部門長



国際化への期待を語る竹内利行元副学長



とてもユニークな GKA を流暢に語る
吉田シズエ中高等部校長



活発な質疑をされる篠塚一夫元理工学府長



化学工学科の古い卒業生である Prof. Erfan Chen (Shenyang Univ. of Chemical Technology)



バイオマスエンジンで盛り上げる Prof. Naik (IISc)



国際化は1日にしてならず。25年以上前の卒業生とともに、根津紀久雄北関東産官学研究会会長(左から2番目)(根津会長の左は教え子の鄒北京大教授, 右は同じく邵重慶大教授, 一番右は筆者の研究室の古い卒業生の隆武強前中国支部長(大連理工大教授))